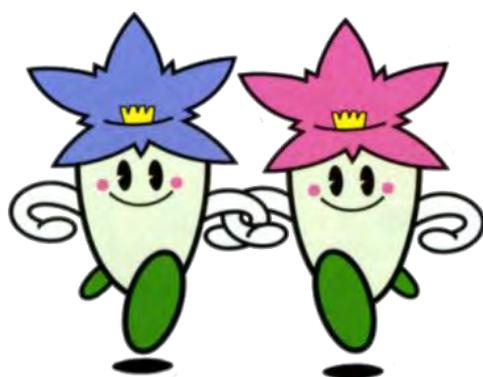


高山村

まち・ひと・しごと創生

総合戦略



平成28年3月



はじめに

本村では、人口減・少子高齢化による社会構造の変化や、グローバル化により多様化する住環境に対応しながら、若者世代を中心に魅力あるバランスの取れた施策を展開し、人口減少の鈍化に取り組む考えから、村民の皆さま、関係各位のご協力をいただきながら平成27年3月に「第5次高山村総合計画」を策定し、人と人との繋がりを大切にしたい、小さくとも輝いていける村づくりを進めております。



一方、国においては、人口減少と地方経済縮小の克服に向け、将来にわたって活力ある日本社会の維持を喫緊の課題とし、「まち・ひと・しごと創生法」を平成26年11月に制定し、国と地方が総力をあげて取り組むための指針として、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が同年12月に示されたところであります。

このことを踏まえ、本村においては、本格的な人口減少局面への対応と地域経済の発展、活力ある共生・共助の地域社会の形成に向けて「高山村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。

本総合戦略につきましては、若者世代をはじめ、産業関係者・行政機関・教育機関・金融機関・メディア等様々なお立場から、貴重なご意見・ご提案、熱心なご審議をいただく中で、高山村に対する切実な思いが込められた内容となっておりますので、村においても総力を挙げて取り組む所存であります。

また、今般の地方創生に取り組むにあたり、高山村の在り方について再認識し、村民の皆さま一人ひとりが主役であり、学び合い、知恵と行動を集結する中で地域や人と人との関わりを持ち続けながら自分たちの地域を創っていくことが重要となります。今後とも村民皆さまには一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

本総合戦略の策定にあたりまして、御参画いただきました多くの関係各位に、深甚なる感謝の意を表し挨拶といたします。

平成28年 3月

高山村長 後藤 幸三

目次

第1章 基本的な考え方

1節	計画策定の背景	1
2節	計画の位置付け	2
3節	計画の期間	2
4節	策定方針	3

第2章 施策の実施にあたっての基本方針

1節	戦略のテーマ	5
2節	目標人口	6
3節	基本目標	7
4節	施策の体系	11

第3章 基本的方向と具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI）

基本目標1	〔郷土愛を育み、子育てしやすい環境づくり〕	13
基本目標2	〔働きたい人を支援し、応援できる環境づくり〕	21
基本目標3	〔今ある資源・自然を活用した魅力あるむらづくり〕	24

第4章 効果検証手法の検討

1節	組織体制（案）	29
2節	PDCA体制の確立	30

■ 資料編

資料1	要綱
資料2	策定経緯
資料3	委員名簿
資料4	高山村まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会の概要
資料5	各種データ
資料6	意見公募

第1章 基本的な考え方

1節 計画策定の背景

国では、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、まち・ひと・しごと創生法が制定されました。

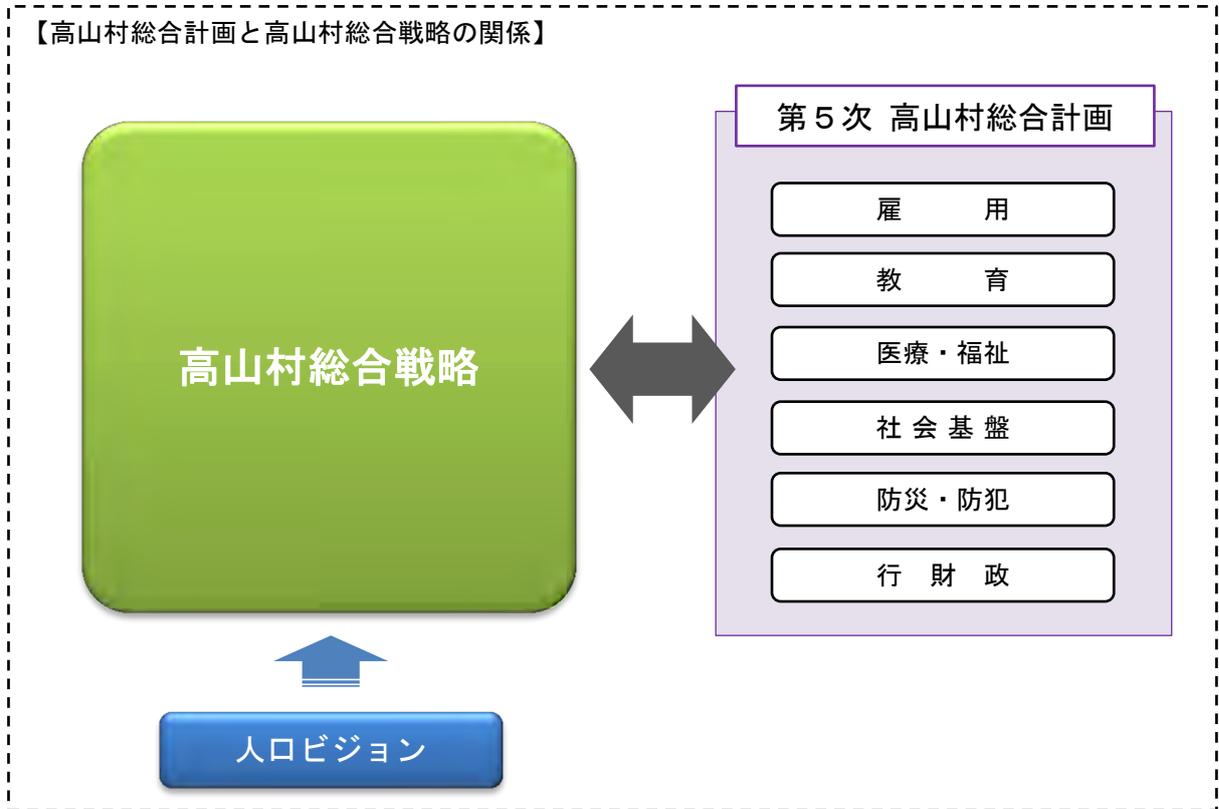
村でも、昭和55年をピークに人口は減少に転じ、少子高齢化が一層進展することが見込まれており、人口減少の克服、地域経済の発展や活力ある共生・共助の地域社会の形成などが課題であり、安心して子育てをし、安心して働き、安心して暮らすことのできる社会環境の整備が求められています。

また、村では、国の情勢に応じた迅速な対応が求められるなか、今般の地方創生を契機として、村民及び行政が「高山村の在り方」についてもう一度認識し、私たちに今できることは何か、次世代に何を残していくべきか知恵を集結し、地域の可能性や課題を共有することが、村の地方創生に向けた姿勢であると考え、「住みたい・住み続けたい」、そして「住んでよかった」と実感できるむらづくりを推進します。

これらのことを踏まえ、高山村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、高山村総合戦略と言う。）は、国及び県が策定するまち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案するとともに、第5次高山村総合計画との整合を図り、村の課題に一体的に取り組むため、高山村ならではの特色を生かした小回りの利く施策を展開し、民意と行政との乖離を是正した高山村総合戦略を策定し、地方創生に取り組みます。

2節 計画の位置付け

平成27年度を初年度とする高山村総合計画の基本構想、基本計画及び実施計画の一部を高山村総合戦略と位置づけます。高山村総合計画でまとめた、村が目指すべき方向について、特に人口減少・少子高齢化に対応する取り組みを具体化し、着実な実施につなげていきます。



3節 計画の期間

計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5ヵ年とします。

また、高山村総合戦略策定にあたっては、「第5次高山村総合計画（目標年次 平成36年度）」を踏まえたものとなります。

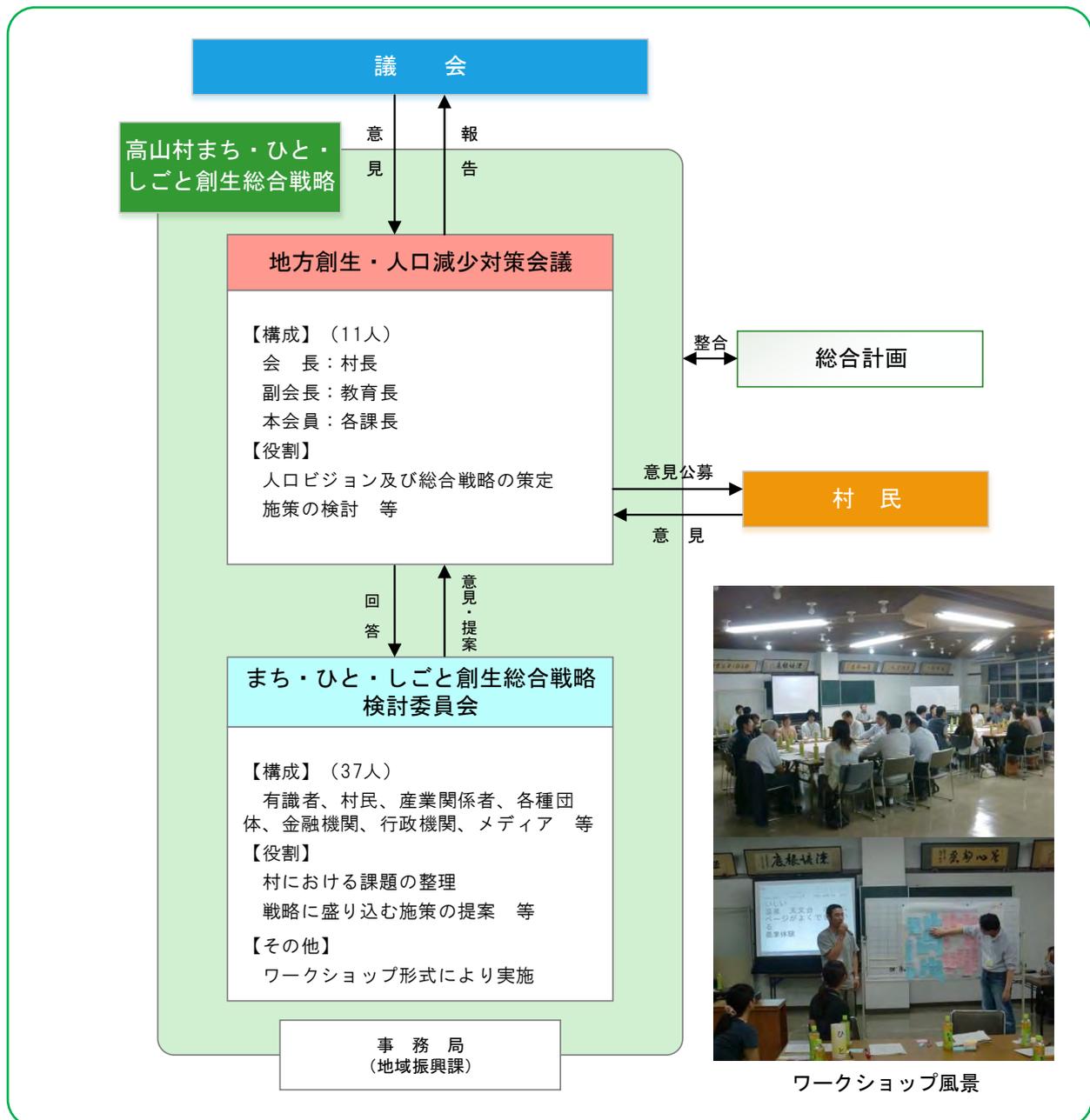
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
高山村総合戦略	第1期					第2期				
第5次高山村総合計画 [前期基本計画]	→									
第5次高山村総合計画 [後期基本計画]						→				

4節 策定方針

高山村総合戦略の策定にあたり、高山村まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会（以下、検討委員会と言う。）では、子育て世代をはじめとする村民の方から様々な意見を徴収することに重視しました。

意見徴収にあたっては、ワークショップ形式を取り入れ、様々な意見やアイデアを出してもらえるように配慮しました。

また、地方創生・人口減少対策会議では、検討委員会の意見及び提案内容を踏まえ、数値目標※₁、重要業績評価指標（K P I）※₂の設定及び施策等の検討を行いました。



※1 数値目標

総合戦略の実施状況に関する客観的な指標をいう。

※2 重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。



第2章 施策の実施にあたっての基本方針

1節 戦略のテーマ

ひとが輝き 星舞うやすらぎの高原 ふるさとたかやま

村民一人ひとりがたかやまを故郷と感じ、郷土愛を持つことにより「ひと」が輝き、村の産業を支援・応援することにより「しごと」をつくり、村の資源である自然や高原を生かした「むら」全体の元気と希望となるよう、村民全員が主役として満足度の高い村を目指します。



2節 目標人口

人口ビジョンの結果をうけ、村の目標人口は次のとおりに設定します。

■戦略目標（平成32年：計画期間最終年）

3,600人

単位：[人]

目標人口	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年
現況値	3,911	—	—	—
独自推計※1	—	3,694	3,473	3,261
シミュレーション※2 [出生の奨励] [移住の奨励]	—	3,731	3,593	3,495
【参考】 日本創成会議推計	—	3,687	3,459	3,224
【参考】 村独自将来人口推計結果	—	3,694	3,473	3,261

※1 独自推計：村で独自に出生や移動の仮定を設けた推計。移動率、合計特殊出生率及び生存率について、近年の結果からの平均的な数値を仮定値とした推計。

※2 シミュレーション：独自推計に平成32年(2020)までに合計特殊出生率を2.07に上昇かつこれまでの社会移動のほか、若い世代を5年間ごとに5世帯（夫婦、子ども男女2人の計4人）の移住することを仮定値とした推計。

3節 基本目標

1 高山村総合戦略の構成

村における地方創生を成し遂げるため、国及び県総合戦略を骨子とし、次の3つの基本目標を定め、具体的な施策を推進します。

また、基本目標ごとの相互関係を次ページに示します。

基本目標1 郷土愛を育み、子育てしやすい環境づくり

若者の結婚や出産の希望をかなえ、安心して子どもを産むことができる支援体制、女性が働き、活躍できるための環境整備及び情報発信を充実させるほか、教育面においても一村一校園所という教育環境と豊かな自然を生かした体験活動などから、郷土愛の育みと生きる力を習得する環境づくりを推進します。

また、空き家等の既存ストックの有効活用及び移住相談窓口の設置による住まいの総合的な環境整備を行うことにより、移住・定住を促進します。

さらに、村の特性である医療・福祉、防災力の集積を活かした、総合的な連携や体制の構築を図ります。

基本目標2 働きたい人を支援し、応援できる環境づくり

村での生活を安定させるため、仕事を必要とする人を応援できる仕組みづくりを推進します。

農業については、経営者の高齢化・後継者不足が進む中、農業の持続的な発展と経営の安定化を図るため、農業担い手の確保・育成・支援に取り組むとともに、質の向上や生産性の高い農業形態を推進します。

また、村の産業を活性化するため、商工会・金融機関との連携を図りながら、起業研修、起業支援、助成金の活用や人材育成などの支援を総合的に行うほか、企業立地及びテレワークの促進・誘致を図り、雇用及び仕事の間を創出します。

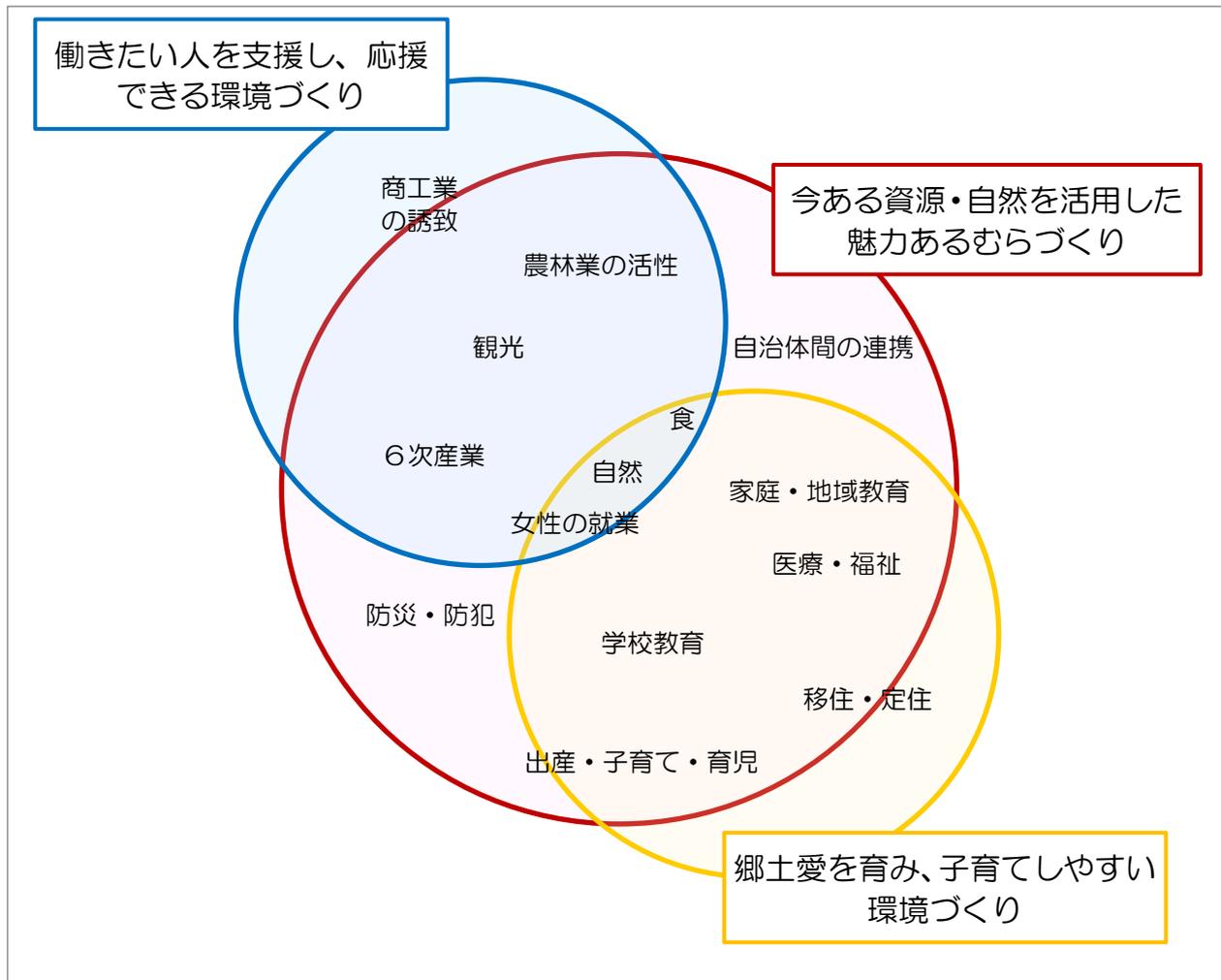
基本目標3 今ある資源・自然を活用した魅力あるむらづくり

観光の中心を道の駅中山盆地に、村の特徴である「農」や「食」、「自然」を生かした観光振興による地域の活性化を図るとともに、農山村地域の魅力と賑わいのある村を創出します。

また、村に潜在している自然を含めた文化財等の資源の掘り起こしを行うとともに、これまで整備してきた公共施設の維持管理の最適化を図ります。

今後は、人口減少等の変化などに対応した村とするため、むらづくり会議や人材育成などの基盤強化を図るとともに、村民主体のむらづくりを推進します。

■基本目標ごとの相互関係



■ワークショップについて

上図は、ワークショップの際に出たキーワードを整理したものです。

ワークショップの構成は、今後を担う世代及び子育て世代の母親等を中心としています。また、現在村に着任している「地域おこし支援隊」をファシリテーターとして起用することにより、村を内外の視点から客観的に見ることを目的としました。



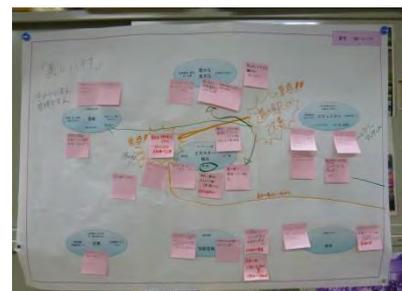
西野委員長による話題喚起



グループ討議



グループ発表



ワークショップの結果

2 基本目標及び数値目標

3つの基本目標と主要施策を以下に示します。

【基本目標1】		
郷土愛を育み、子育てしやすい環境づくり		
数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.48	1.75
【主要施策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援 ・ 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進 ・ 移住・定住の推進 ・ 安心・安全な暮らしの充実 		

【基本目標2】		
働きたい人を支援し、応援できる環境づくり		
数値目標	基準値	目標値
村内で新たに就職する人	—	30人
【主要施策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の担い手の育成確保と農地の有効利用 ・ 農産物のブランド育成及びPR・地域農業の活性化 ・ 各産業の育成支援及び就労機会の創出 		

【基本目標3】

今ある資源・自然を活用した魅力あるむらづくり

数値目標	基準値	目標値
重要度満足度調査において「これからも住みたい」と回答する人の割合	62%	70%以上

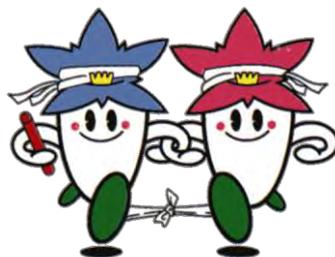
【主要施策】

- ・ 観光・都市交流の推進
- ・ 村有資源の有効活用
- ・ 伝統文化の保全・継承
- ・ 村民主体のむらづくりの推進



4節 施策の体系

戦略の テーマ	基本目標	主要施策
ひとが輝き 星舞うやすらぎの高原 ふるさとたかやま	<p>郷土愛を育み、子育てしやすい環境づくり</p> <p>[数値目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率5年間で【1.75】以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援 ・一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進 ・移住・定住の推進 ・安心・安全な暮らしの充実
	<p>働きたい人を支援し、応援できる環境づくり</p> <p>[数値目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内で新たに就職する人【30人】以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手の育成確保と農地の有効利用 ・農産物のブランド育成及びPR・地域農業の活性化 ・各産業の育成支援及び就労機会の創出
	<p>今ある資源・自然を活用した魅力あるむらづくり</p> <p>[数値目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要度満足度調査において「これからも住みたい」と回答する人の割合：平成31年度に【70%】以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・都市交流の推進 ・村有資源の有効活用 ・伝統文化の保全・継承 ・村民主体のむらづくりの推進



第3章 基本的方向と具体的な施策及び重要業績評価指標 (KPI)

基本目標1 郷土愛を育み、子育てしやすい環境づくり

1 出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援

【基本的方向】

若者の結婚や出産の希望をかなえるため、未婚男女の出会いの場の創出や新婚世帯への支援を行うとともに、安心して子どもを産むことができる出産支援体制の充実に取り組みます。

また、子育てや教育に関する取り組みについて、広くわかりやすい情報を発信することのできる環境整備を行うとともに、相談体制の充実を図り、出会いから子育てまで一貫した切れ目のない支援体制づくりを推進します。

(1) 出会いから結婚までの支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
婚活イベントカップル成立組数	1組/年	3組/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会い場・たかやまコンの開催 ・ 出会い後・アフターフォロー 		

(2) 妊娠から出産までの支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
出産数	18人/年	30人/年
妊婦健診受診率	100%	現状維持
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦健康診査の実施 ・ 不妊治療費助成制度 ・ 出産祝金（品）の支給 		

(3) 子育て支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
乳児家庭訪問率	100%	現状維持
保育所待機児童数	0人	現状維持
学童保育（放課後児童クラブ）利用者数	20人/日平均	40人/日平均
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・乳児家庭全戸訪問 ・乳幼児健診の実施 ・母子(父子)家庭等自立支援の推進 ・児童扶養手当の支給 ・母子家庭等児童就学扶助の充実 ・医療費の公的助成制度（福祉医療費） ・保育所運営（通常保育、一時預かり、延長保育、病児・病後児保育） ・保育所（多子世帯への保育料軽減） ・学童保育（放課後児童クラブ）運営 ・再就職や再雇用の促進 ・男女共同参画の推進 		

(4) 相談支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
子育てマップの作成	—	マップ作成
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援マップの作成・配布 ・インターネットによる育児情報の提供 ・子育て支援事業利用者への支援 ・ひとり親家庭生活支援 ・児童家庭支援センター運営 ・地域子育て支援拠点事業 ・子どもを守る地域ネットワーク機能の強化 ・各種相談窓口の連携強化 		

(5) ふれあいの場づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
子育て支援センター利用者数	4人/日平均	10人/日平均
子育て支援センター開催回数	3回/週	6回/週
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none">・道の駅を拠点とした公園整備、緑地広場整備・子ども教室の開催・育児教室の開催・子育てサロン運営・子育て支援センター運営		



2 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進

【基本的方向】

村では、一村一校園所という教育環境にあることを最大限に活用し、人との関わりに必要な周りの「ひと・もの・こと」とより良く関わっていく態度などの道徳性を養うとともに、本村の恵まれた自然環境を生かし、豊かな自然体験的な学びが可能となる教育づくりに取り組むことで“生きる力”が育まれ学力の向上を支えていきます。

さらに、次世代を担っていく子どもたちが、英語力やICT能力を養うことで、国際社会に自信を持って対応できるような人的・物的環境を整え、教育環境の強化を図ります。

このように、一人ひとりの子どものより良い成長を促すという目的を共有し、学校、家庭や地域と効果的な連携を図り、「オールたかやま」の体制で特色ある教育を目指します。

(1) 子ども教育の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
英会話教室の開催数 (中学校)	9回/年	15回/年
ICT活用授業数 (小学校・中学校)	19時間/週	22時間/週
	6時間/週	12時間/週
統一献立アンケート調査「郷土料理を知っている」割合 (小学生 高学年・中学生)	小学生 8%	小学生 20%
	中学生 20%	中学生 30%
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの里たかやま学園」幼保小中一貫教育の推進 ・英語教育の推進 (海外青年招致事業JETプログラム、中学生海外派遣事業・英会話教室、きゅうじつ英語クラブ) ・ICTを活用した授業づくり ・一貫性のある道徳や人権教育の推進 ・食育の推進 (地場産のみを使用した統一献立、食文化の継承) ・学校給食の地場産農産物等の利用促進 ・子ども読書活動の推進 ・たかやま塾 ・オンライン学習塾 ・むらの学校 (自然体験・農業体験・ものづくり・郷土料理) 		

(2) 教育・就学支援の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
重要度満足度調査「高等教育の支援」満足度指数 (5段階評価)	2.99	3.05
<p>[主な事業・取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園における子育て支援の充実 ・ 幼稚園 (多子世帯等への保育料減免) ・ 小中学校入学祝金の支給 ・ 要保護・準保護児童生徒就学援助 ・ 特別支援教育就学援助 ・ 学校給食費補助制度 ・ 高校生就学費補助制度 ・ 奨学金貸与制度 		



3 移住・定住の推進

【基本的方向】

空き家等の既存ストックの有効活用などにより、若い世代を中心に、移住・定住につながる住まいの総合的な環境整備を進めます。

また、相談窓口を設置し、移住・定住に関心のある方に対し地域や住居、就労などに関するわかりやすい情報を提供するとともに、受入体制・移住後の支援体制の整備を進め、移住・定住を促進します。

(1) 移住の促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
空き家バンク登録件数	—	10件
宅地造成面積	2,400㎡	10,000㎡
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の有効活用・税制優遇 ・宅地分譲の推進 ・村営住宅の推進 ・買取型住宅の推進 ・住宅リフォーム補助制度 		

(2) 移住・定住の取り組み

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
移住者相談件数	—	10件
移住者数	—	20人
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・移住相談窓口の設置 ・移住・定住促進PR ・移住・定住体験の推進 ・定住奨励金制度 ・住宅取得補助制度 ・自動車(免許)取得補助制度 		

4 安心・安全な暮らしの充実

【基本的方向】

村民に自らの健康管理の定着を促し、健康増進や自主的に介護予防できる環境整備を行い、子どもから高齢者が「安心して住みやすく、住み続けたいむら」であり続けるため、村の特性である医療・福祉、防災力の集積を活かした、総合的な連携や体制の構築を図るとともに、情報提供などの支援・サービス体制の充実を推進します。

また、路線バス、福祉バスを中心とした地域公共交通に関し、安定的な維持と村外への通学や村中心部と周辺部の交通ネットワークの形成を充実させます。

(1) 医療・福祉の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
特定健康診査受診率	46.3%	60.0%
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定健康診査の実施 ・ 各種任意予防接種費用助成制度 ・ へき地学校巡回健診事業 ・ 人間ドック費用一部助成制度 ・ 福祉無料入浴券の配布 ・ 勤労者生活資金の貸付 ・ 医療費の公的助成制度 (福祉医療費) [(再掲) 出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援] 		



(2) 高齢者福祉の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
地域サロンの開催	3ヶ所	13ヶ所
高齢者見守り協定締結数	—	3団体
地域生活支援事業数	11事業/年	15事業/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業の充実 ・地域包括支援センターの充実 ・高齢者見守り対策の強化 ・一人暮らし高齢者配食サービス ・高齢者バス回数券割引制度 ・緊急通報システムの設置 ・紙おむつ等の給付 ・寝具等クリーニング利用券の支給 ・福祉有償運送事業 		

(3) 公共交通の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
路線・福祉バス乗客数	20千人/年	23千人/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス運行 ・福祉バス運行 (無料巡回バス) ・デマンド交通の整備 		

(4) 防災力の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
災害時応援協定締結数	2団体	5団体
消防団員の定数確保	100%	現状維持
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災力の向上・支援 		

基本目標2 働きたい人を支援し、応援できる環境づくり

1 農業の担い手の育成確保と農地の有効利用

【基本的方向】

地域の農業を支える担い手の育成確保を図るとともに、村内外からの農業への新規参入者への研修制度の整備や営農定着への支援を推進します。

また、担い手への農地集積による規模拡大及び効率的な農業経営の実践を推進し、農地の有効活用を図るとともに、担い手の法人化や集落営農の組織化などを推進します。

(1) 農業担い手の育成確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
認定農業者数	18 経営体	21 経営体
認定新規就農者数	—	2 人
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の経営基盤強化支援 ・農業の法人化推進 ・集落営農の推進 ・就農情報の提供 ・農業への新規参入の促進 ・青年就農給付制度 ・グリーン・ツーリズムの推進 		

(2) 農地の有効利用

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
利用権設定等面積	66 ha	80 ha
農地中間管理事業への農地の出し手	2 戸	10 戸
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・利用権設定等促進事業 ・農地中間管理事業 ・鳥獣害対策 		

2 農産物のブランド育成及びPR・地域農業の活性化

【基本的方向】

各種認証制度への登録を支援するとともに、積極的な情報発信による認知度・イメージの向上及び新たな販路の開拓を行うことで、農産物のブランド化を推進します。

また、地域の豊かな資源を活用する6次産業化の推進や各種施策等の活用支援などにより、特産品の創出や農業の活性化を図ります。

(1) 農産物のブランド化の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
群馬県特別栽培農産物認証ほ場面積	8.0ha	10.0ha
地域団体商標件数	—	1件
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・農産物のブランド化（月あかね、高山きゅうり、りんどう） ・農産物PR ・新規販路の開拓 ・環境保全型農業の推進 		

(2) 6次産業化の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
6次産業化・地産地消費に基づく事業計画の認定事業者数	1事業者	2事業者
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の開発・創出・販売 ・6次産業推進事業補助制度 ・農業振興協議会補助制度 ・加工施設整備 ・森林資源の有効活用 		



3 各産業の育成支援及び就労機会の創出

【基本的方向】

村の産業を活性化するため、コーディネーター等人材の育成・支援を総合的に行い、村内外の人材の仲介及び活用を積極的に進めるほか、商工会・金融機関などとの連携を図りながら、起業や事業承継に対する支援・研修を行い、事業者が地域の雇用と需要を担い、生活基盤を支える役割を果たせるような支援体制を推進します。

また、本村の恵まれた自然環境と首都圏からの利便性を強みとしたテレワークの促進を図るとともに、企業誘致等による雇用や仕事の場の創出を推進します。

(1) 起業支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
地域コーディネーター育成人数	—	1人
起業・継承者等相談件数	—	5件/年
起業・継承者等件数	—	2件/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの育成 ・起業支援（起業・継承者等への資金援助、研修支援） ・起業支援 		

(2) 雇用の拡大

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
テレワーク利用企業数	—	1件
企業誘致数	—	3件
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの促進・誘致 ・企業誘致の推進・支援 ・林業従事者の育成支援 		

基本目標3 今ある資源・自然を活用した魅力あるむらづくり

1 観光・都市交流の推進

【基本的方向】

道の駅中山盆地を中心とした、農山村地域の賑わいのある村を実現させるため、「農」や「食」、「自然」を生かした様々なイベントを開催・誘致し、村の知名度を向上させるとともに、交流人口の増加を目指します。さらに、観光客の回遊性の向上を図ることで地域の活性化を生み出します。

(1) 道の駅の利用促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
観光客数	369千人/年	500千人/年
観光組織(高山モデル)設置	—	1組織
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の機能強化 ・田んぼアートの実施 ・旧三国街道新田宿復活祭の実施 ・ふるさと祭りの実施 ・ゴルフ場利用権補助制度 ・観光組織(高山モデル)の設置 		

(2) 新たな都市交流の促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
滞在型観光客数	20人/年	50人/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅を拠点とした観光交流館整備、宿泊施設整備 ・むらの学校 [(再掲) 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進] ・移住・定住体験の推進 [(再掲) 移住・定住の促進] 		

(3) 観光PRの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
公式ホームページのアクセス数	58千アクセス/年	62千アクセス/年
各種イベント・体験プログラム等の開催数	10回/年	20回/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ運営 ・観光PR ・グリーン・ツーリズムの推進 [(再掲) 農業の担い手の育成確保と農地の有効利用] ・むらの学校 [(再掲) 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進] 		

(4) 観光客の回遊性の向上推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
ガイドボランティア案内回数	25回/年	50回/年
三者連携会議による事案数	1事案/年	6事案/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドボランティアによる活動 ・観光施設(サイン)等整備 ・レンタサイクルの整備 ・三者連携会議の開催 		



2 村有資源の有効活用

【基本的方向】

これまで整備してきた公共施設の更新、統廃合及び長寿命化等による新たな利活用を推進するとともに、施設の維持管理の最適化を図ります。

また、潜在している自然を含めた村有資源の掘り起こしを行い、誘客等の都市交流及び村内交流を促進するための有効活用を推進します。

(1) 村有資源の有効活用

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
公共施設管理計画の策定	—	計画策定
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の適正化 ・村有地の有効活用 		

3 伝統文化の保全・継承

【基本的方向】

国選択無形民俗文化財の尻高人形及び国登録有形文化財の平形家住宅等の歴史ある伝統文化を次世代に保全・継承するため、後継者の育成・支援を行うとともに、魅力を磨き、人を惹きつける村を創出します。

(1) 伝統文化の保全・継承

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
伝統芸能教室開催数 (小学生 高学年)	7回/年	現状維持
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の維持管理 ・伝統芸能の保全・後継者育成 ・伝統芸能教室の開催 ・旧三国街道新田宿復活祭の実施 [(再掲) 観光・都市交流の推進] 		

4 村民主体のむらづくりの推進

【基本的方向】

人口減少に対応した持続可能な村とするため、村民一人ひとりが主役であり続け、主体性を持ってむらづくりに取り組む必要があります。

そのため、子どもから大人までが全員で学び育て合い、村に関わる全員で元気な村、住み良いむらづくりを行うため、むらづくり会議や人材育成などの基盤強化を図るとともに、村民主体のむらづくりを推進します。

(1) 村民主体のむらづくりの推進

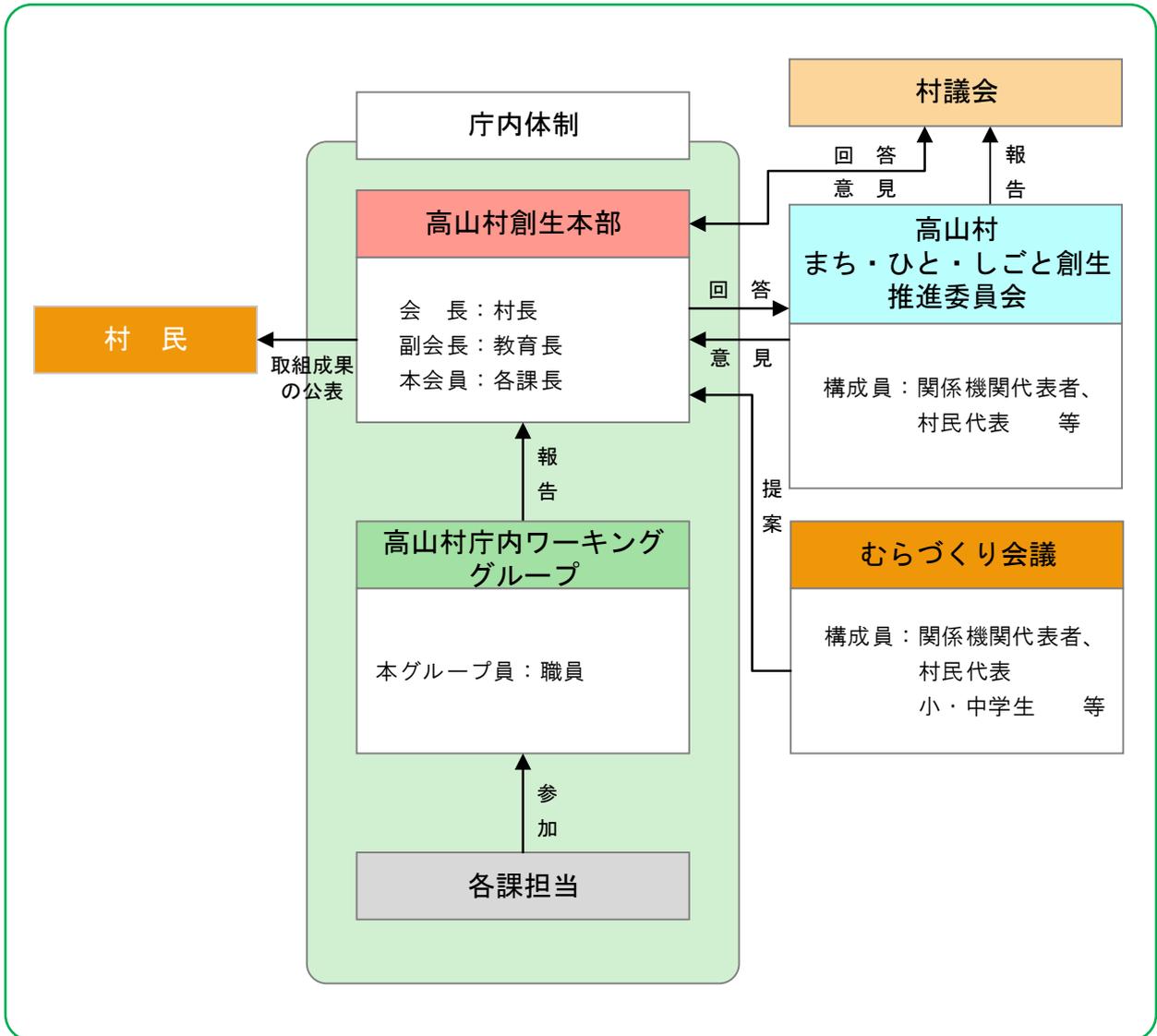
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
むらづくり会議による提案件数	—	10件
地域づくり支援事業活用団体数	11団体/年	20団体/年
[主な事業・取り組み] <ul style="list-style-type: none"> ・むらづくり会議 ・里山環境整備 ・地域づくりへの支援 ・オンライン学習塾 [(再掲) 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進] ・むらの学校 [(再掲) 一村一校園所による「豊かな心と確かな学力を育む」特色ある教育の推進] ・地域防災力の向上・支援 [(再掲) 安心・安全な暮らしの充実] 		



第4章 効果検証手法の検討

1節 推進体制（案）

地方創生の取り組みをより効果的なものとするため、村民、村議会及び関係機関と連携を図りながら推進します。



2節 PDCA体制の確立

高山村総合戦略の目標設定は、今回設定した3つの基本目標ごとに5年後の数値目標※₁及び施策の重要業績評価指標（KPI）※₂を設定し、年度ごとに施策の実施状況及び目標達成状況を検証していきます。

なお、検証は年度ごとに、PDCAサイクル※₃による施策・事業効果検証を行い、必要に応じ高山村総合戦略の見直しを行っていきます。

また、吾妻郡及び近隣市との地域間連携を積極的に推進し、村の地方創生に取り組みます。



【PDCAサイクル】

※1 数値目標

総合戦略の実施状況に関する客観的な指標をいう。

※2 重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

※3 PDCAサイクル

PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。